

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
専門教育科目	専門コア科目	土壌肥科学	2			F2			
		必 農業経営学	2			L2		農	
		必 国際食農商品戦略論	2			L2			
		農業生産と気象	2			L2		農	
		フードコーディネート論	2			L2			
		学習と参加の理論	2			L2			
		比較食文化史	2			L2			
		農村女性論	2			L2			
		植物育種学	2			L2			
		行動経済学	2			L2			
	学際科目領域	食農とメディア	2				L2		
	学科専門科目	総合化科目	必 食農基礎実習	2	4				農
			必 食農基礎演習	4	4				
			必 食農専門実習	2		4			
			必 食農専門演習	4		4			
			必 食品分析学実験	2		L4			
			必 食農ファームステイ	2		L2			
			必 食農フィールドスタディ	2			L2		
			必 食品加工品質評価学実習	1			F2		
			必 食品安全評価学実験	1			F2		
			食農文化演習	2			F2		
			食品機能学実験	1			L2		
			調理学実習	2			L4		
			必 国際食農科学演習(一)	2			F2		
			必 国際食農科学演習(二)	2			L2		
			必 国際食農科学演習(三)	2				F2	
			必 国際食農科学演習(四)	2				L2	
必 卒業論文			4					4	

区分欄の必は必修科目、選必は選択必修科目を表す(空白は選択科目)。教職欄の「必」・「○で囲んだ科目」は、教員免許取得の主要科目のため、教職必修科目とする。

卒業要件単位数		
授業科目区分		必要単位数
(a) 総合教育科目	必修科目	7単位
(b) 外国語科目	必修科目	8単位
	選択必修科目	4単位
(c) 専門教育科目	必修科目	71単位
	選択必修科目	12単位
	選択科目	12単位
総合教育科目 + (d) 外国語科目 + 専門教育科目		の選択科目
合計		124単位以上

卒業要件単位数について

- 区分(d)には、次の単位を含めることができる。
    - 他学部聴講・他学科聴講・英語による専門教育プログラム・日本語科目で修得した単位。  
ただし、合計して30単位を上限とする。  
(他学部聴講・他学科聴講の履修制限単位数は16単位)。
    - 選択必修科目のうち、卒業要件の必要単位数を超えて修得した単位。
    - 区分(c)の選択科目のうち、卒業要件の必要単位数を超えて修得した単位。
  - リメディアル教育科目の修得単位は、卒業要件単位に含めない。
- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目、Lは後学期配当科目を表す。  
 2 外国語科目の実用英語科目は、8科目の中から2科目を選び必修とする。  
 3 外国語科目の初修外国語科目は、全科目についてステップ制とする(各外国語について、(一)の単位を修得しなければ(二)、(二)の単位を修得しなければ(三)、(三)の単位を修得しなければ(四)を履修できないという制度)。  
 4 学科基礎科目の人間関係分野の科目は、4科目の中から2科目を選び必修とする。  
 5 学科基礎科目の社会関係分野の科目は、4科目の中から2科目を選び必修とする。  
 6 学科基礎科目の自然関係分野の科目は、5科目の中から2科目を選び必修とする。

# 英語による専門教育プログラム関係科目

## 1. プログラム名

Special Program(Conducted in English):Agriculture, Food and Environment

## 2. 目的

本学では、多数の留学生および海外協定校からの交換留学生を受け入れており、本学の高度な専門教育を効率的に学習させるためには英語による授業が望ましいと考えています。さらに、国際社会に飛び立つ日本人学生にとっては英語で専門分野を理解する能力が不可欠です。このようなグローバル化時代に対応した大学教育の必要性から本プログラムを実施します。

## 3. 内容

本学は、食料、環境、健康、資源エネルギーという人類の課題に対して、農学および関連領域から貢献する人材の育成を目指しています。3キャンパス6学部23学科体制の下で専門的な教育研究を実施し多大な成果をあげてきましたが、これらの課題は相互に関連するもので、学際的アプローチも重要です。たとえば食料問題は食料の生産・分配・消費に関する諸問題の総称ですが、食料生産は農業や食品加工業によって遂行され、自然環境、農業技術、食品加工技術などと深く関わってきます。分配は市場経済メカニズムだけでなく保蔵技術の改良によって流通範囲が拡大しつつあります。消費には所得水準のみならず地域固有の食文化が反映されます。

近年の人口増加に見合う食料の増産は現代農学の顕著な成果でしたが、同時に環境負荷の増大や食の安全性の危惧が表面化してきました。今日、環境保全や安全食料の確保の必要性が世界的規模で認識されています。そこで、農業、食料、環境について、広義の農学的視点から基礎知識の修得を目指す全学共通プログラムを開講します。

まさに、食料と環境についての基礎知識を総合的に修得することは、人類繁栄に貢献することにつながります。修得者の国際貢献を推進するため、世界共通語である英語を使用言語として実施します。国際的な活動を志向する日本人学生の英語力と専門的知識の向上を図るとともに、特に欧米などからの留学生や海外協定校からの交換留学生にとっては、日本やアジアの食料・農業・農村・環境・文化を概観できる機会となるよう講義・見学などの内容に配慮します。

## 4. 開講科目

### Special Program (Conducted in English) : Agriculture, Food and Environment

#### 科目一覧

科目名	配当学年	配当学期	単位数
Basic (recommended for 1 ~ 2 Year students)			
Environment and Agriculture	1 ~ 4	F	2
Food and Environment in Economic Development		F	
Life History and Applications of Landscape Plants ※2		F	
Japanese Agricultural Development		F	
Comparative Developing Agriculture		L	
Forest and Forestry ※1		F	
Farmers and Consumers in Japan ※6		L	
Ecology and Agricultural Production		L	
Comparative Nature Study from Cultural Perspective ※2		F	
Intermediate (recommended for 2 ~ 3 Year students)			
Introduction to Bioindustry	1 ~ 4	F	2
Advanced (recommended for 3 ~ 4 Year students)			
Food and Health 1	1 ~ 4	F	2
Food and Health 2		L	
Molecular Biology and Biotechnology		L	
Agro-Environmental Engineering ※3		L	
Planning and Design of Landscape Architecture ※2		F	
Vegetable Production Technologies for International Cooperation		F	
Global Food Systems		F	
Agricultural Trade		L	
Ecology and Food Production		L	
Comparative Food Production Technologies		L	
Edo Aesthetics and Environmental Resiliency ※2		L	
Eastern Hokkaido: Identifying Opportunities in a Region of Declining Population		F	
Common (recommended for 1 ~ 4 Year students)			
Agricultural Scientific English for International Cooperation	1 ~ 4	L	2
Field Study of Food and Environment ※4		L	
Sustainable Agriculture in Asia ※4		L	
Group Approach to Food and Environment ※5		L	

※1 実習を伴う。

※2 視察を行う。

※3 前期の「Environment and Agriculture」を履修していることが望ましい。

※4 当該科目は隔年開講である（\*「世界学生サミット」(注)が海外で開催される年度は開講しない）。

開講の有無については、4月に学生ポータルに掲出するので確認すること（担当課：グローバル連携センター事務部）。

※5 「世界学生サミット」の座長または発表者のみが履修できる。

※6 開講日程等の詳細を7月に学生ポータルに掲出するので確認すること。

(注) 詳細は、本ハンドブックの「国際教育プログラム」の頁を参照のこと。

## 5. 本プログラムの特徴

### (1) すべて英語による授業

本プログラムは、本学の専門教育をすべて英語によって実施するものです。単に語学教育のプログラムではないので注意してください。

### (2) すべての学生を対象に開講

本プログラムは 6 学部全学科を対象としたオープンプログラムで、開講学年はフリーです。

フィールドスタディ等学外で実施する科目を除き、当面の開催場所は以下の通りです。

Introduction to Bioindustry	}	…… 北海道オホーツクキャンパス
Eastern Hokkaido:Identifying Opportunities in a Region of Declining Population		
Ecology and Agricultural Production		…… 厚木キャンパス
その他の科目		…… 世田谷キャンパス

### (3) Basic から Advanced まで開講

本プログラム科目は、比較的やさしいレベルの科目からより高度なレベルの科目まで開講されます。自分の英語力にあわせて履修を考えてください。

### (4) 授業の開講について

各講義科目は、半期で週 1 時限( 1 コマ)開講の 2 単位です。

履修については、前頁の科目とあわせて、必ず留意事項を確認してください。

### (5) 修得単位数について

修得した単位は、学則第15条の 3 に規定するとおり、卒業要件単位に含めることができます。ただし、学科毎に卒業要件単位に含めることができる単位の上限が異なるため、注意してください(※詳細は p.98を参照すること)。

### (6) 視察、演習、実験・実習およびフィールドスタディ

実費を徴収します。

## 6. 履修上の注意事項

自分の英語能力にあわせて履修を考えましょう。学年を問わずいつでも履修できますので、英語能力アップを図った上で履修が可能です。